

明日香村内仏像彫刻の調査

美術工芸研究室・飛鳥資料館

村内32ヶ寺の仏像調査 明日香村教育委員会の協力を得て、昭和52年度5回にわたり明日香村内の仏像彫刻の調査を実施した。村内に伝わる仏像のうちすでに重要文化財に指定されているものは10件あり、これらを所蔵する寺院は、橘寺、岡寺、弘福寺（川原寺）、飛鳥寺等、村内の著名な真言宗系の寺で、これらの寺院における調査は後日に行うこととして、今回の調査ではこの他に32ヶ寺（浄土宗24、浄土真宗5、曹洞宗1、真言宗1、その他1）について、その所蔵する全仏像彫刻計370余軀を調査した。予想通り大方は江戸時代のものであったが、平安時代から室町時代にかけての作品34点が見い出された（平安仏16点、鎌倉仏3点、室町仏15点）。

平安時代の作例中、まず注目されたのは上の薬師堂の諸像で、本尊薬師如来坐像を中心に、千手観音立像（像高2m）、四天王立像（像高三軀90cm前後、一軀75cm）が置かれ、いずれも一木造の像である。12世紀の制作と考えられる古像だが、中でも本尊薬師坐像（榿材、素地仕上、像高86cm）は、明快な目鼻立ちや穩かに肉づけされた肉身部の表現などに特色があり、山間部には珍しい均衡のよくとれた堅実な作品である。制作は12世紀前半と認められるが、保存状態が悪いため損傷が著しいのが惜まれる。これに伍する坐像の作例として祝戸の専称寺本尊阿弥陀坐像（榿材、一木造、後補の漆箔、像高97.5cm）がある。制作年代を11世紀まで遡らせることができるもので、肩山広く体奥厚く両脚を大きく張った安定感のある像である。ただ残念にも頭部が後補のものにかえられている。平安期の立像では立部の定林寺と豊浦の西念寺の本尊阿弥陀像が注目された。その他、上畑の高山寺には愛らしい金銅釈迦誕生仏の古像が遺されていた。像高11.1cmの小像ではあるが、数少ない天平時代の誕生仏として貴重である。

鎌倉時代の作例は少なく、わずかに定林寺の南無仏太子像（像高69cm、榿材、寄木造、玉眼、彩色）が14世紀前半の作例としてあげられる。柔かな肉づけ、聡明かつあどけなさを示すその表情は、門成寺の南無仏太子像（1309）と共通した表現がみられ、当地における中世の太子信仰の一資料として注意される。室町時代の作例の中では、小像ながら宿院仏師の作風を示す奥山久米寺にある日光・月光両菩薩立像が、その端正な出来栄で注目された。

橘寺観音堂本尊・木造如意輪観音坐像の調査 この像は重文に指定されているが、今まで未調査であったので調査を行なったところ、平安後期の如意輪観音中でも際立った存在であることが再確認された。定朝様を忠実に踏襲した作例で、本格的な密教像として当時の橘寺を考える上で注目すべき仏像である（口絵1）。

（星山 晋也）

薬師堂木造薬師如来坐像